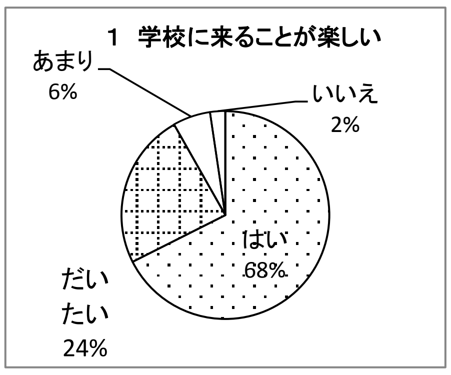
令和2年　2月

神川小学校保護者様

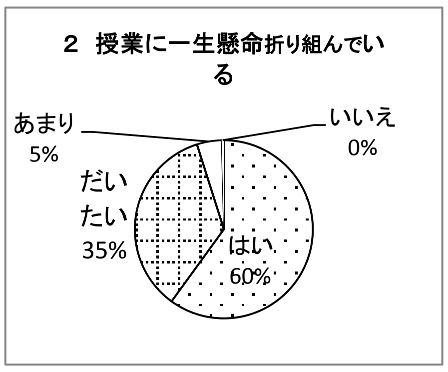
上田市立神川小学校長　倉嶋隆雄

神川小学校の子どもたちによる「よりよい学校を作るためのアンケート」 集計報告

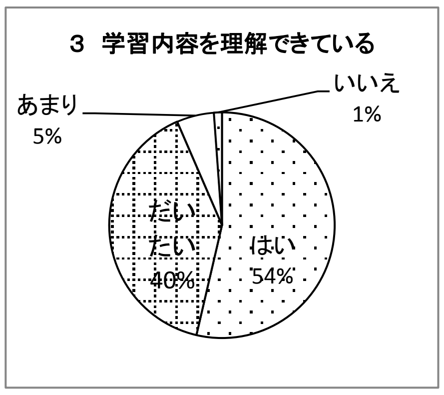
二学期末、１～６学年の本校児童に「よりよい学校を作るためのアンケート」を実施しました。回答した児童の結果を　集計し、紙面にてご報告します。



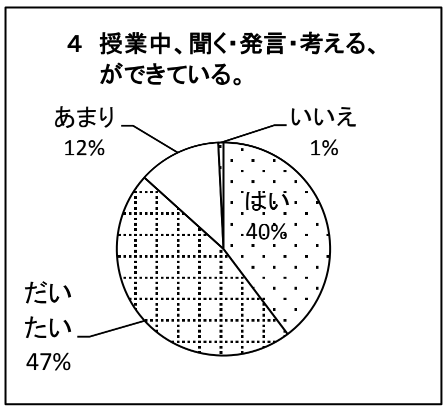
学校に来ることに肯定的な児童が9割を超えています。学習すること、友だちと関わることに喜びを感じている児童が多いという結果が出ました。ただ、否定的に感じている児童が8%ほどいるため、その児童たちへの支援が必要とされています。



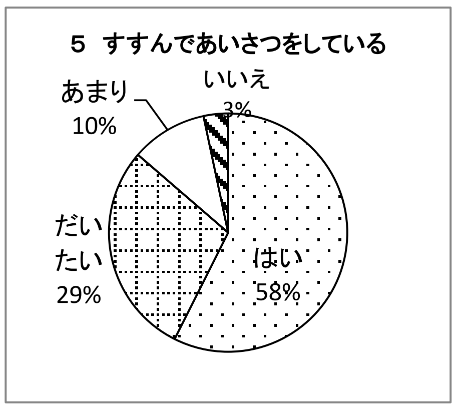
毎日行われている授業には、おおむね意欲的に取り組んでいます。さらに児童の意欲を高めるために、児童が主体になって、お互いに関わり合いながら学び合える授業の改善を進めたいと思います。



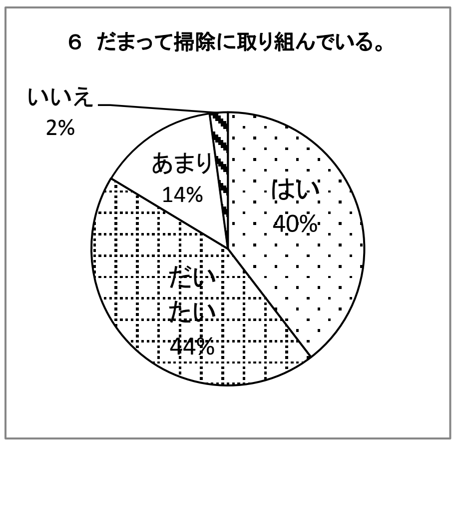
授業の内容が理解できていると答えた児童が9割を超えていますが、自分の学力に不安を感じていそうな児童が約6%という結果でした。授業改善とともに、個に応じた学習支援の工夫や少人数学習などの授業形態の工夫も必要であると思われます。



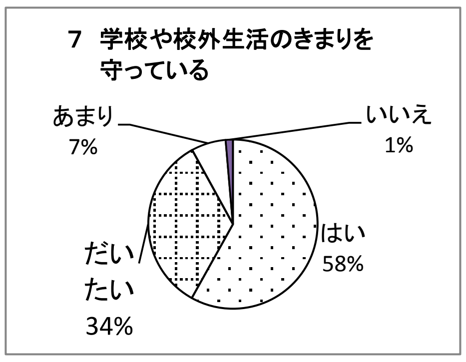
「2」では「授業に一生懸命取り組んでいる」と答えた児童が多い反面、「聞く、発言する、考える」という内容になると「はい」と答えた児童が20%も減ってしましました。特に高学年になると「はい」と答えた児童が少ない傾向になっていますので、「聞く、発言する、考える」が充実できるように授業を考えていく必要がありそうです。



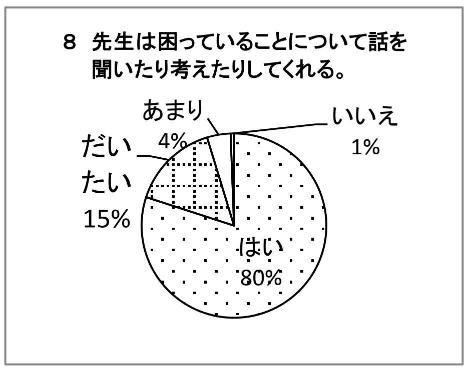
あいさつに関わって、児童はおおむね自分からすすんで行っているという意識が高い結果が出ました。ただ、保護者の方々や本校職員など大人の意識とは若干ズレが生じているように思われます。子ども同士、家人や学校職員など身近で関わりの深い人とのあいさつだけでなく、地域の方にも意識を向けられるような手立てが必要と思われます。



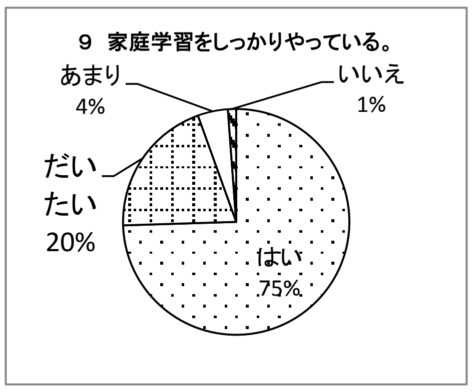
本校は「無言清掃」を実施している関係上、落ち着いて清掃に向かう児童が多いと感じられます。さらに向上するため、単純にきれいにするだけではなく、校舎や施設に感謝の気持ちを感じられるような意識づけが必要だと感じます。



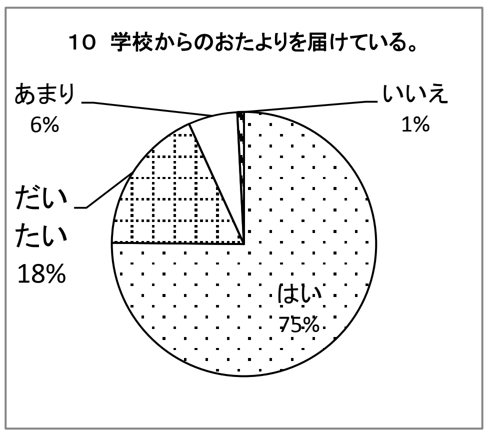
児童が意識する「きまり」の内容は大変多くありますが、ときどき指導が必要になる内容として、「廊下歩行」「不要物」「登下校のしかた」があります。児童の安全に関わるきまりについては、さらに向上するために児童とともに考え合ったり、指導したりする必要があります。



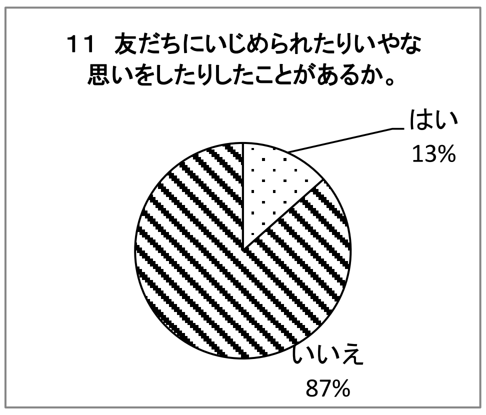
本校職員、特に学級担任に対する児童の意識は、おおむね肯定的に受け取られているようです。「あまりそう思わない」「そう思わない」と感じている児童が全体の5%ほどいますので、その児童に対しては個々に話を聞いたり支援をしたりする必要があります。



家庭学習に関わってはおおむね良い結果と言えそうです。家庭学習を行う時間、内容など学校職員と保護者の方々との連携も充実させていきたいと感じます。



学校からのおたよりについては、保護者の皆様のご協力もあっておおむね良い結果でした。連絡ノートやお便りを入れるケースなどを使って学校職員と保護者の皆様との連絡方法が確立している結果と言えます。



友だちとの関わりで「いじめられた」「いやな思いをした」と答えた児童が10%を超えているのは気になります。個々に話を聞きながら、具体的にどんなことをされたのか、現在の状況はどうなのかと相談ウィークで早急に対応する必要があります。

上記の結果を踏まえ、子どもたちにとってよりよい学校になるよう、本校職員一同必要な支援指導を行って参りたいと思います。また、ご家庭でも今回の結果をお子様とともに話題にしていただければと思います。